

公民館報

発行
2024
1/30

まつもと

松本市広報R5-37

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プルルト



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 65

松本市重要無形民俗文化財

横沢の御柱とスースー

五穀豊穡と家内安全を願い
晴天の空に建つ

(撮影 2024.1.2 梓川地区横沢)

新しい時代の図書館を探して 14年ぶり松本開催 長野県図書館大会

これからの図書館、本との出会いの場をより多くの子どもたちに、本の楽しさをより広く伝えたい。本と人と場の交流事例が紹介され、熱心に議論されました。

令和5年10月28日(土)、

松本市音楽文化ホールをメイン会場に第73回長野県図書館大会が開催されました。東北信地区サテライト会場の県立長野図書館とメイン会場とはオンラインでつながり、大画面を通してお互いの発表と質疑応答が行われました。

「楽しみを創り出す」場

基調講演は軽井沢風越学園校長岩瀬直樹氏を講師に招き「学校と図書館と本」と軽井沢風越学園の挑戦」と題した講演がありました。



本と図書館の可能性を語る岩瀬校長



実践事例発表の取り組みは良い刺激に

子ども時代に本と図書館に救われたこと、教員になってから本の足りない新設の学校で、先生方が協力して本を集めたことなど自身の体験から、豊かな幸福感を味わうことの必要性、友だちと一緒に取り組む経験の重要性を話されました。

風越学園は図書館を中心に置いた校舎配置になっています。そこでは普通に本を読むだけでなく、仲間と疑問を調べたり、学年を超えて話合ったり、また読み聞かせの場であるなど、理想的な環境

とよく言われます。

「風越だからできるんだよね？」と言う人がいます。他ではできないのでしょうか？一番肝要なのは、子どもと本を結ぶ人、環境によりません。本を通じ、子どもたちが楽しめるヒントをたくさん受け取ることができると講演でした。

図書館大会を通じて

松本市には図書館が11館あります。地区公民館には図書コーナーも見受けられます。身近な場所で、理想の居場所。人が本に出会い笑顔や喜びをもたらすための、新しい交流スペースを創り出す手がかりが、得られたことでしょう。



「楽しみ」を創る：グループ討議は熱く

今回の図書館大会詳細内容は下記より



わがまち自慢 梓川地区

横沢の御柱と「スースー」

平成27年12月、松本市重要無形民俗文化財に

毎年正月に「御柱」または「おんべ祭り」と呼ばれる行事を行う地域が梓川地区を中心に点在しています。おもに道祖神が祀られている場所に、五色の紙や飾り物で彩られた柱を立て、五穀豊穡や家内安全などを祈るものです。

梓川地区の横沢町会では、「中」と「西下」の二箇所、「御柱」が長く行われていました。



引き継がれる地域の習俗



子どもたちがふれて歩き

スースーから始まる

1月2日の朝に「スースー」と呼ばれる勧進(寄付集め)が行われます。子どもたちが五色のオンベ(御幣形の道具)を持って「スースードウジンノ、オンマエモウス」と唱えながら、各家庭を回ります。

今年も立てられた

現在「中」のみが柱立てを行っています。御柱は20日近辺の休日に倒され、紙手などがその場で焼かれます。



地域の力を合わせて

未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

第39回公民館研究集会 令和5年度地域づくり市民活動研究集会

●期日 2月18日(日) ●会場 松本市中央公民館(Mウイング)ほか

日程	9:00 受付	9:30~9:45 開会式	9:45~11:50 全体会(基調講演)	11:50~13:00 昼食	13:00~16:30 分科会
----	------------	------------------	-------------------------	-------------------	--------------------

内容

■全体会・基調講演 「ふるさと」をつくる公民館

～松本市町内公民館調査からみる公民館の新たな可能性～

講師 東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏



牧野 篤 氏



▲
ホームページ
はこちら

■分科会

	分野	テーマ
第1分科会	こども・若者	地域と若者 ～みんなが参加したい、参加してよかったと思える地域づくり～
第2分科会	おやこ	おやこのみなさん、公民館へようこそ!
第3分科会	担い手不足	担い手人材はどこにいる? 新たな担い手とつながるために
第4分科会	町内公民館	「つながる・つなげる、松本らしい“つどいの場”」 ～地域づくりの事例から～
第5分科会	居場所づくり	新たな視点から考える地域づくり

※ 基調講演・分科会のどちらかのみ参加も可能です。

※ 集会の様子は、後日編集後YouTubeにて配信予定です。

【主催】松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会

【主管】未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い実行委員会

参加申込方法

2月9日(金)までに、必要事項(氏名/住所/電話番号/参加を希望する分科会/保育・手話要約筆記の有無)を専用フォーム(LoGoフォーム)もしくは最寄りの地区公民館・集会事務局(中央公民館)へお申込みください。

事務局

松本市教育委員会 生涯学習課・中央公民館(Mウイング南棟2階)
〒390-0811 松本市中央1丁目18-1 TEL 0263-32-1132/FAX 0263-37-1153
E-mail:gakushu@city.matsumoto.lg.jp

申込専用
フォーム



再発見!! まつもと地名がたり 3

山のほとり(辺)が語源 入山辺地区

入山辺地区は松本市の東部に位置し、三方を山に囲まれ、日本百名山の一つである美ヶ原の玄関口です

中央に薄川が流れ、集落は両岸段丘上の傾斜地に点在しています。人口は約1800人です。

この地区の集落には地名の看板が整備されています。これは平成23年の市政まちかどトークをきっかけにできた「入山辺地区の将来ビジョン」を考える会(愛称:こんな山辺にするじゃん会)が、各集落の紹介のために、平成26年から2年がかりで建てたもので、全部で25あります。



「包石」の、薄川堤防沿いに、風呂敷の形をした巨岩があり、堤石と呼ばれていました。が、

のちに包石に変わり、これが集落の名前となりました。包石は大正15(1926)年に島立にある乃木殿の建立の石材として奉納されたため、現在はありません。当時の記録



「桐原」では、かつて平地の周囲を深く掘って空堀を作り、その内側で牛馬を飼育していました。堀を作った他の土地と切り離すことから切原の地名が起ったといわれています。

その後、切原が桐原に変わりました。現在は東桐原と西桐原の2つの町会に分かれています。



入山辺の入り口にある西桐原の看板



「三城」は標高1400mと入山辺地区でも最も標高の高いところにある集落ですが、地名の由来は人名だという説があります。松本藩主が石川氏の時代に庄屋を務めていた中村三次郎が住んでいたことが、のちに三城に変わったというものです。

山辺ワイナリーの駐車場には入山辺マップの大きな看板があります。地図の中に地名の看板の場所が描かれており、その由来を知りたくなる地名がたくさんあります。集落の看板の中には、地名の由来が書かれているものもあります。地図を頼りに訪ねてみませんか。



詳細はこちら

松本平の野鳥たち

イスカ (2017年12月松本市入山辺三城 写真提供:信州野鳥の会)

スズメより少し大きい。オスは濃い赤色、メスは地味で灰色がかった黄緑色。頭の割には大きいくちばしの上下が食い違い、「イスカの嘴の食い違い」として有名。しかし、この形状が好物の松ぼっくりの種子を容易に取り出すことが可能。松本地方では冬に10数羽の群れを見ることが出来る。

まつもと散歩

みんなの夢が
はてしない未来へ
いつまでも続くように!

(撮影: 2024.1.1 四柱神社)